

一般社団法人日本呼吸療法医学会 2017 年定時社員総会 議事録

日 時：2017 年 7 月 14 日（金）15：30～18：00

場 所：グランドニッコー東京台場 地下 1F「シャトレ」（〒135-8701 東京都港区台場 2-6-1）

【議事次第】

I. 開 会

- ・代議員98名中、出席者76名、委任状提出が19名あることが報告された。
- ・出席者と委任状提出者の合計95名が代議員数の過半数なので本総会の成立が確認され、開会が宣言された。

II. 理事長挨拶（川前理事長）

- ・川前理事長より挨拶があった。

III. 会長挨拶（布宮会長）

- ・布宮会長より挨拶があった。

IV. 報告事項

1. 理事会および社員総会議事録の確認・承認（川前理事長）

- ・前年度の定時社員総会議事録と理事会議事録が報告され、承認された。

2. 事務局報告（大塚事務局担当理事）

1) 一般会員：1,903 名

職 種	'14/ 10/1 (%)	'15/ 4/1 (%)	10/1 (%)	'16/ 5/1 (%)	10/1 (%)	'17/ 5/1 (%)	7/1 (%)
総 数	2,200 (100)	2,112 (100)	2,166 (100)	1,986 (100)	2,104 (100)	1,985 (100)	1,903 (100)
医 師	1,015 (46.1)	993 (47.0)	1,028 (47.4)	986 (49.7)	1,041 (49.7)	1,005 (50.7)	985 (51.8)
看護師	545 (24.8)	505 (23.9)	512 (23.6)	423 (21.3)	456 (21.6)	407 (20.5)	373 (19.6)
臨床工学 技士	457 (20.8)	437 (20.7)	445 (20.5)	418 (21.0)	436 (20.7)	415 (20.9)	392 (20.6)
理学療法士	132 (6.0)	126 (5.9)	129 (6.0)	117 (5.9)	125 (5.9)	126 (6.3)	122 (6.4)
企業関係	24 (1.1)	23 (1.2)	25 (1.2)	20 (1.0)	21 (1.0)	20 (1.0)	20 (1.0)
その他 ※	27 (1.2)	28 (1.3)	27 (1.3)	22 (1.1)	25 (1.1)	12 (0.6)	11 (0.6)

※准看護師・作業療法士・栄養士・院生・学生・教員・学内講師・RN・MSN・研究エンジニア・
薬剤師・歯科衛生士・歯科医師・言語聴覚士・心理士など

《参考》1. 会員総数に名誉会員 30 名は含まない。2 年分会費滞納者 114 名も除外。女性会
員は 498 名（Dr：131、Ns：275、CE：54、PT：31、他：7）。

2. 年度末退会者 4 名を含む（2018 年 3 月末退会予定者）。

3. 1 年分会費滞納者 168 名を含む（2018 年 3 月末退会対象者）。

- 2) 賛助会員：11 社（2017 年度から年会費 10 万円）
 3) 購読会員：22 件（図書館、学協会、書店、企業など。年会費 5,000 円）
 4) 会費納入状況

年 度	2015	2016	2017
納入件数※	1,733 (80.0)	1,691 (80.3)	1,156 (60.7)

※各年度に該当する納入件数（納入率）

5) 代議員（2016.7～2018.7）の所属変更

- ・青景聡之先生（かわぐち心臓呼吸器病院循環器科・集中治療科より
東京都立小児総合医療センター集中治療科）
- ・卯野木健先生（筑波大学附属病院集中治療室より
茨城県厚生連総合病院水戸協同病院集中治療室へ）
- ・柏 庸三先生（大阪大学医学部附属病院集中治療部より大阪はびきの医療センター集中治療科）
- ・木村雅彦先生（北里大学医療衛生学部より杏林大学保健学部理学療法学科）
- ・佐藤庸子先生（総合高津中央病院呼吸器内科よりかわぐち心臓呼吸器病院呼吸器内科）
- ・清水 雄先生（筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター水戸協同病院麻酔科より
筑波大学医学医療系麻酔科）
- ・中澤弘一先生（宇都宮記念病院麻酔科より東京医科大学麻酔科学分野）
- ・林久美子先生（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科救急医学分野より医療法人博光会御幸病院）
- ・星 邦彦先生（東北医科薬科大学病院麻酔科学教室より JR 仙台病院麻酔科）
- ・槇田浩史先生（東京医科歯科大学大学院心肺統御麻酔学分野より杏雲堂病院麻酔科）
- ・山下幸一先生（高知大学教育研究部医学系臨床医学部門麻酔科学・集中治療
医学講座より日本赤十字社高知赤十字病院麻酔科）

6) 医師会員と賛助会員の年会費増額について

- ・前年の社員総会での決議通り、本年度から医師会員 1 万円、賛助会費 10 万円の年会費請求を年度初めに行ったことが報告された。

7) 機関誌発送について

- ・本年度から会費滞納者に対して、1 年分未納の場合は翌年第 1 号（5 月末発行）の機関誌頒布を停止し、納入確認後に発送することが報告された。

3. 定款施行細則ならびに内規変更の件（2016 年度に理事会で行った改正報告）

1) 細則 第 21 条：副理事長

- ・副理事長は理事長が理事の中から選出でき、理事長に事故がある時または理事長が欠けた時には暫定理事長を決めるまでの理事長代行を務めることを明記した。

2) 細則 第 22 条：暫定理事長

- ・理事長に事故がある時または理事長が欠けた時に、理事長の残任期間の理事長業務を行うものを暫定理事長と定め、その選任方法を明記した。

3) 細則 第 32 条：年会費

- ・今年度より医師会員を 8,000 円から 1 万円に、賛助会員は 5 万円から 10 万円に増額した。
- 4) 内規 第 13 条：オブザーバー
- ・委員長が必要に応じてオブザーバーを委員会に招集でき、旅費・日当も適用されることを明記した。
- 5) 内規 第 11 条：委員任期
- ・定款には委員の任期は 1 年とあるが、内規では 2 年となっていたため定款に準拠して、委員は 1 年更新で連続 6 期（約 6 年）まで、委員長は 1 年更新で連続 4 期（約 4 年）までに変更した。
4. 第 40 回日本呼吸療法医学会学術集会準備状況（竹田副会長）
- ・東京ドームホテル（地下 1 階と 40 階）で、2018 年 8 月 4 日（土）～5 日（日）に「“私が呼吸不全になったら君に治療して欲しい”と言われるために」をテーマに開催することが報告された。臨床に重きを置いた学術集会とする方針が示された。
5. 各委員会報告
- 1) 将来計画委員会（川前委員長）
- ・藤野理事が次期委員に選出された。
 - ・委員会で構想が練られている遠隔医療に関する事業について実態調査を行い、問題を抽出するための ad hoc 委員会を組織することが報告された。
- 2) 人工呼吸編集委員会（中根委員長）
- ・内山副委員長が次期委員長に選出された。また、相嶋先生、有菌先生、笹野先生、竹内先生、平田先生が次期委員に選出された。
 - ・『人工呼吸』第 33 巻 2 号（2016 年 11 月末）と、第 34 巻第 1 号（2017 年 5 月末）の発行が報告された。
 - ・第 33 巻 2 号から査読者の視点で投稿原稿を紹介する「エディトリアル Editorial—本号のトピックス—」の掲載が始まり、基本的に査読者や編集委員が執筆を担当するが、適任者不在の場合は理事が執筆することが報告された。
 - ・投稿論文の査読進捗状況、過去 3 年の新規投稿数が増加傾向であること、正副委員長による事前査読状況、査読担当回数上位者名などが報告された。
 - ・査読依頼に対する承諾率はこの 3 年で上昇し、この 1 年で代議員が査読を受諾しなかったのは 6 件だったことが報告された。
 - ・『人工呼吸』第 33 巻に掲載された 11 本（原著 2 本、呼吸管理の工夫 1 本、症例報告 4 本、短報 4 本）の投稿論文を対象に選考を行って優秀論文賞 1 編、奨励論文賞 2 編の推薦を行い、理事会で承認された。第 39 回学術集会会員懇親会にて表彰式を行う予定であることが報告された。
 - ・投稿規定について、全著者の職種明記、図表分量の頁数換算に関する改訂を行い、Editorial の執筆要項を別途作成した。
 - ・用語集に「高流量療法;high flow therapy」「経鼻高流量療法;nasal high flow therapy」

の 2 語を追加した。

- ・西田前会長の協力を得て第 38 回学術集会の協賛企業(74 社)に広告掲載依頼を行い、第 33 巻第 2 号に 5 社の応募があった。今後も学会長に協力を仰ぐ方針が報告された。

3) 代議員審査委員会 (鈴木委員長)

- ・今中理事、卯野木先生、岸川先生、佐藤 (庸) 先生、島田先生、高橋先生の 6 名が次期委員に選出された。2018 年実施予定の代議員審査<新規・更新>に向け、委員 8 名体制で準備を行っていくことが報告された。

4) 小児在宅人工呼吸検討委員会 (渡部委員長)

- ・前年度の途中に理事会の了承を得て委員交代が行われ、三浦委員の就任が報告された。
- ・『小児在宅人工呼吸療法マニュアル』が 2017 年 3 月に脱稿し、会員限定のパブリックコメント募集後に校正会議を経て 4 月に完成したことが報告された。
- ・WEB 上での販売を見据え、ISBN・JAN コードを取得した (3 年間有効)。
- ・印刷会社、販売価格、予約受付・発送・在庫管理方法などを決定した後、第 1 期予約販売受付を 3/24~5/10 に行った (5 月末発送)。2,000 部を製作し、約 1,500 冊が販売された。
- ・本学術集会で委員がマニュアルの宣伝を行い、第 2 次予約販売受付を 7/21~8/8 に実施するとの報告があった。

5) セミナー委員会 (今泉委員長)

- ・大藤先生、長嶺先生、春田先生が次期委員に選出された。
- ・2016 年度は以下のセミナーを開催した。
 - 第 42 回セミナー (6 月 4 日 (土) 神戸、265 名)
 - 第 18 回実技コース (7 月 16 日 (土) 名古屋、35 名)
 - 第 4 回医師向け (8 月 27 日 (土) 東京、180 名)
 - 第 43 回セミナー (11 月 13 日 (日) 東京、330 名)
 - 第 5 回医師向け (2 月 18 日 (土) 神戸、233 名)
- ・2016 年度決算は、医師向けセミナーが予定より収容人数の多い会場で開催できたこともあり、単年度収支で約 200 万円の黒字となった。
- ・2017 年度は以下のセミナーを開催予定。医師向けは年 4 回を予定。
 - 第 6 回医師向け Basic (4 月 21 日 (土) 東京)
 - 第 1 回医師向け Advanced (5 月 20 日 (土) 東京)
 - 第 44 回セミナー (5 月 27 日 (土) 神戸)
 - 第 19 回実技コース (7 月 15 日 (土) 東京)
 - 第 7 回医師向け Basic (9 月 9 日 (土) 京都)
 - 第 2 回医師向け Advanced (9 月 16 日 (土) 京都)
 - 第 45 回セミナー (11 月 18 日 (土) 東京)
- ・今年度からセミナー事務局委託金を 240 万円から 430 万円に増額する提案があり、承認された。医学会セミナー 1 回あたりの委託金 70 万円に対して医師向けは 40 万円 で委託を開始したが、業務量はどちらも変わらないことが明らかとなり、医師向

けセミナーを 70 万円に増額することと、今年度は 2 セミナーが増えることが総額増加の理由として報告された。

6) チーム医療推進委員会（長谷川委員長）

- ・飯田先生、西村先生、濱本先生、横山先生が次期委員に選出された。
- ・理事長判断による例外措置として、長谷川委員長の任期が 1 年延長された。
- ・RST 実態調査アンケートを学術集会後に実施するとの報告があった。
- ・RST プロジェクトは、当初、本委員会の内部組織として位置付けられていたが、呼吸ケア・リハビリテーション学会との連携という状況もふまえ、委員会とは切り離した別組織とし、メンバー編成、任期などはすべて RST プロジェクトに一任されることが報告された。

7) 人工呼吸管理安全対策委員会（齋藤委員長）

- ・高田先生が次期委員に選出された。
- ・人工呼吸器の作動停止事例（2016 年 7 月～2017 年 5 月）は報告 6 件で、うち実害なし 5 件、後遺症あり 1 件であった。覚知状況は、アラーム発令 3 件、停止自体に気づいたもの 3 件であった。
- ・動作停止事例報告が日本臨床工学技士会機関誌に掲載されとの報告があった。
- ・NPPV・HFNC 関連勧告文の更新を『人工呼吸』第 33 巻第 2 号に掲載し、学会 HP にもアップロードした。
- ・今後、人工呼吸中の身体拘束に関する審議、高流量療法に関するガイドラインの検討などを行う予定。また、2017 年度で任期満了を迎える委員長・委員の後任の選出も行う。

8) 専門医委員会（中澤委員長）

- ・佐藤委員、高橋委員、渡海委員が次期委員に選出された。
- ・2017 年度の研修施設は 4/1～5/31 に受付を行い、新規 13 施設、更新 2 施設からの申請があった。7 月 16 日の委員会で書類審査を行うことが報告された。
- ・2017 年度の筆記試験は 11 月 11 日（土）大阪で開催する。
- ・会場から、近隣に本会の研修施設がないため研修を受けられない場合の救済措置を検討してほしいとの要望があった。委員会で審議する。

9) 危機管理委員会（小谷担当理事）

- ・大下委員が次期委員長に選出され、鈴木（裕）委員、山下委員が次期委員に選出されたことが報告された。
- ・前年度は新興感染症等に関する目立った情報はなく、引き続き、厚労科研 MERS 研究班、AMED 鳥インフルエンザ研究班などの外部組織情報を適宜確認し、新興感染症対策に備える方針が報告された。

10) ECMO プロジェクト委員会（大下委員長）

- ・理事会の了承を得て委員長交代が行われ、4/1 付で大下委員長が就任した。また、大山委員、清水（敬）委員が次期委員に選出された。
- ・2016 年度は以下のシミュレーション・ラボを開催した。

第 8 回千葉コース（8 月 7 日（日）千葉大学）

第 9 回藤田コース（12 月 10 日（土）～11 日（日）藤田保健衛生大学）

- ・症例登録は 2016 年 12 月 14 日にいったん終了した（402 例）。その後、本会ならびに集中治療医学会からの予算が下りることになり、2017 年 6 月に再開した。
- ・2017 年度は以下のシミュレーション・ラボを開催予定。

第 10 回広島コース（5 月 27 日（土）～28 日（日）広島大学）

第 11 回千葉コース（2 月 24 日（土）～25 日（日）千葉大学）

- ・前年度から、ラボ全般に係る運営経費や症例登録費用などを事業費支出として学会本体の会計に組み込むことになった。機材借用費が高額だが事業の性格上受講料の設定にも限度があり、赤字予算となっている。収支改善に向けた継続的な検討を行うことが報告された。
- ・厚生労働省 ECMO 研究班が 2018 年度に再開となり、再び本委員会と事業提携ができることになった。2015 年冬に多数発生した ECMO 症例に対し、患者生存率 80% という驚異的な成果を得たことが高い評価に繋がったとの報告があった。

11) 利益相反委員会（星 委員長）

- ・佐藤先生、相澤先生、藤本先生、宮川先生、吉岡先生が次期委員に選出された。なお佐藤委員は次期委員長として就任する。
- ・人工呼吸編集委員から、1 名以上本委員会委員に選出する方針を確認した。
- ・無償で借りた高額な器械で得たデータを発表することに利益相反・倫理上の問題がないか、他学会の動向をみながら検討することが報告された。
- ・引き続き、日本医学会の COI 表示を注視していく。

12) 学術委員会（西田委員長）

- ・布宮会長が次期委員長に就任することが報告された。
- ・従来、学術集会の演題募集時に「ヒト対象の研究に関する倫理指針」に基づいて研究を行ったことを抄録中に記載するよう明示していなかったが、今後は倫理審査の承認を明記することが理事会で確認された。段階的に周知を図るため、次回第 40 回から演題募集要項に周知文を掲載し、次々回第 41 回募集時から正式な演題採用条件とする案を検討していることが報告された。

13) 社会保険委員会（蝶名林委員長）

- ・次回 30 年度の診療報酬改定に向けて以下の検討を行ったことが報告された。
 - ①在宅人工呼吸管理患者への臨床工学技士による安全管理料
 - ②現在人工呼吸器管理（IPPV, NPPV）のみに限られている呼吸療法サポートチーム（RST）加算の、高流量療法や吸入療法・VAP bundle への適応拡大
- ・急性期高流量療法については、呼吸器学会と共同で診療報酬増点（昨年度改定；160 点/日）を提案している。そのエビデンスとするために、各病院における診療報酬適用後の昨年度の高流量療法および NPPV の使用状況調査を代議員対象に行った。その結果は本学術集会で報告する。

14) 財務委員会（蝶名林委員長）

- ・新たに事業に組み込まれた ECMO プロジェクトや提案のあった遠隔医療に関する ad hoc 委員会設立などに対し、財務サポートできる環境を整えるとの報告があった。
- 15) 倫理委員会（久木田委員長）
 - ・本委員会で活動すべき案件について、他学会の倫理委員会情報の収集、呼吸療法に関して診療上問題となりうる倫理的課題の検討、呼吸療法における倫理講座の検討などを引き続き行っていくとの報告があった。
 - ・倫理審査に関するアンケート調査の実施を検討していることが報告された。
- 16) 医工連携ワーキンググループ（西田担当理事）
 - ・前年度は医工連携アイデアの応募は 2 件にとどまった。今後の活動方針について理事会と連携して検討を行う必要があることが報告された。
- 17) 自発呼吸アセスメント指針作成ワーキンググループ（尾崎委員長）
 - ・前回学術集会にて自発呼吸に関するワークショップを実施したが、その後進捗が滞っており、自発呼吸アセスメント指針作成に向けて、次回の学術集会で発表できるよう引き続き活動を進めていくとの報告があった。
- 6. 委員交代について
 - ・4 委員会の委員長交代（危機管理、ECMO、利益相反、学術）ならびに各委員会の委員交代について、いずれも理事会で確認・承認を行ったことが報告された。
- 7. ロゴ修正版について（大塚担当理事）
 - ・任意団体からの法人化にともない英文団体名が Japan Society of Respiratory Care Medicine から Japanese Society of Respiratory Care Medicine に変更されたが、ロゴマーク中の文字が“Japan”のままだったのでロゴを修正したことが報告された。

V. 審議事項

第 1 号議案 2016 年度（2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）決算書類承認の件
（大塚事務局担当理事、落合・橋本監事）

<収 入>

- ・年会費：納入率は約 87%であった。
- ・広告費：機関誌第 2 号のユーザーレポート掲載社数減が響き予算額を下回った。
- ・事業費：医師向けセミナーが、当初の予定より収容人数の多い会場で開催できたため予算比増となった。
- ・専門医申請料：研修施設の更新申請開始時期を従来の 1 月から当該年度の 4 月に移行したため 2016 年度は 0 施設となった。
- ・機関誌販売：文献使用料については、鎮静ガイドラインの使用料 50 万円分があり、予算を大きく上回った。別刷り販売はユーザーレポート掲載社数と連動して予算比減となった。
- ・当期収入は 29,261,891 円となり、前年度繰越金 35,005,749 円とあわせて収入総計は 64,267,640 円となった。

<支 出>

- ・機関誌発行諸経費：従来巻末に掲載していた学会資料を HP に掲載することで削減したため 110 万円超の経費削減となった。
- ・学術集会援助費：2016 年度に限り、第 38 回とあわせ、次年度に該当する第 39 回の計 2 年分を当初の計画通り計上した。
- ・委員会費：各委員会からの予算請求が実際の経費より多かったため、2016 年度も約 116 万円の減額決算となった。予算と決算の差異が大きかった委員会では、小児在宅人工呼吸検討委員会は学術集会時に委員会を併催したことで旅費が不要となった。危機管理委員会は緊急に対応しなければならない事案がなかったため経費が発生しなかった。
- ・事業費：小児在宅マニュアルの製作経費は委員の努力により経費が大幅減となった。
- ・理事会費：2016 年 6 月の臨時理事会開催と理事人数の増加を反映して予算比増となった。
- ・社員総会費：従来は学術集会予算に計上されていたため予算には計上されていなかったが、2016 年度途中で社員総会の本来の開催母体である学会本体会計からの支出に変更した。
- ・事務局費：予算通り。
- ・当期支出合計は 29,834,844 円、予算との比較では 2,836,846 円減となった。

＜収支合計＞

- ・年度末収支は 34,432,796 円で、繰越金差額である未払金や前受収益などを含めた次年度繰越金（預金残高）は 38,800,265 円となった。
- ・単年度で見ると 572,953 円の赤字決算だが、2016 年度は例外的に 2 年分の学術集会援助費支出があったため、この 1 年分相当の 200 万円の支出を除けば 1,427,047 万円の黒字決算となる。

＜監査報告＞

- ・落合監事から、2017 年 5 月 18 日（木）に会計監査を行い適切に運用されていることを確認した旨の報告があった。
- ・以上、2016 年度決算について報告を行い、承認を得た。

第 2 号議案 2017 年度（2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日）事業計画および収支予算の件（大塚事務局担当理事）

＜収 入＞

- ・年会費：2017 年 5 月 1 日時点の会員数に基づいて計上した。医師会費と賛助会員の年会費を 2017 年度から増額するため前年比 250 万円増となった。
- ・広告費：広告費は 1 号・2 号いずれも表回り全箇所掲載を見込んだ額とした。ユーザーレポートは委員会努力により掲載状況が改善された 1 号については実費を計上した。
- ・事業収入：年 2 回だった医師向けセミナーは 2017 年度から年 4 回の開催となり約 440 万円の大幅増となる。完売が見込まれる小児在宅マニュアル販売収入

760 万円、ECMO プロジェクト参加費収入 180 万円も新たに計上した。

- ・学術集会収入：2017 年度から学術集会が連結決算となるため、新たに項目を設置し、第 39 回学術集会の約 6,200 万円の収入を計上した。
- ・当期収入予算は、学術集会との連結決算の影響が大きく、109,678,000 円となった。前年度繰越金 34,432,796 円をあわせて収入総計予算は 144,110,796 円となった。
- ・学術集会収入を除く単年度収入予算は 4,758 万円となり、さらに前年度になかった事業収入（小児在宅マニュアル、ECMO プロジェクト事業収入）を除くと 3,818 万円となる。前年度予算と比べると 760 万円の増加であり、そのうち 250 万円が会費収入の増加、440 万円が医師向けセミナーの収入増加分となる。

<支 出>

- ・機関誌発行諸経費：前年度決算を参考にし、さらにユーザーレポートの増加分も加味して昨年度決算より若干増額して 489 万円を計上した。
- ・委員会費：委員会からの予算請求額に前年度実績を加味したものを予算として計上した。ただし、予算が少額でも委員会活動に必要な経費は支払われることを確認した。
- ・事業費：医師向けセミナーは年 4 回に増加するため 532 万円増の 981 万円を計上した。医師向けセミナーの事務局委託費は、当初受講生人数に比例して算定した額で契約を結んでいたが、実際に運営してみると受講生の数にかかわらず相応の作業工程が発生することが判明したため、1 回の開催についてコメディカル向けセミナーの事務局委託費と同額を 2017 年度から計上することを報告して承認を得た。小児在宅マニュアルの製作経費 284 万円、ECMO プロジェクト事業経費 250 万円も新たに計上した。
- ・学術集会費：第 39 回学術集会の支出約 6,200 万円と第 40 回学術集会援助費 200 万円を計上した。
- ・理事会費：臨時理事会の開催を見込んで計上した。
- ・事務局費：従来通り 540 万円を計上した。
- ・法人税：連結決算による法人税額が増額し、107 万円を計上した。
- ・当期支出予算は 101,831,000 円となった。

<収支合計>

- ・当期収支予算は 42,279,796 円、単年度収支予算は 7,847,000 円となった。一方、前年度の単年度収支決算が 1,427,047 円だったので、約 642 万円の黒字増額見込みとなった。これは、医師会員と賛助会員の年会費増額分と小児在宅マニュアル黒字分約 476 万円が大きく寄与している。
- ・以上、2017 年度予算について提案を行い、承認を得た。

第 3 号議案 第 42 回学術集会会長候補者選任の件

- ・志馬伸朗先生が推薦され、承認された。

- ・志馬第 42 回会長から挨拶があった。

VI. 閉 会（川前理事長）

- ・川前理事長より閉会宣言があった。